

～「安心して希望と活力に満ちた山口県」の実現～

# ● 大 交 流 維 新 ●

---

# 山口きらら博記念公園の交流拠点施設としての機能強化について

《国土交通省》

提  
案  
・  
要  
望

- 1 官民連携による効果的な施設整備・運営手法を導入するための支援
  - 公園の魅力をより高めるため、Park-PFIなど民間活力の導入に向けた知見の提供・助言
- 2 多くの県民が集い、共に遊び、学ぶことができる施設整備・交流促進への支援
  - 幅広い世代が集い、交流することができる多様な施設を整備するための予算の確保・技術的助言

現 状

## 高いポテンシャルを有する山口きらら博記念公園



山口きらら博記念公園（広域公園）	
供用面積	130.3ha
主な施設	多目的ドーム 屋内水泳プール サッカー・ラグビー場 トリムの広場（遊具広場） 大芝生広場 2050年の森
駐車場	約9,000台

# 山口きらら博記念公園を拠点とした交流の拡大による県民活力の創出・発信

## 山口きらら博記念公園みらいビジョン（令和6年3月策定）

公園の目指すべき姿  
(将来像)

県民誰もがこころ癒され、元気になり、夢あふれる公園

### 14の「きららRe-BORNプロジェクト」

- 心に安らぎや癒しを与える緑や花の充実  
・大規模フラワーガーデンの整備
- 県内外から幅広い世代の人が多く集う施設の導入  
・複合型アーバンスポーツパークの導入
- アウトドアツーリズムの拠点  
・キャンプやグランピング施設の導入
- 遊びながら学ぶことができる空間の創出  
・インクルーシブパークや親水施設の整備
- 健康づくりを推進する機能の導入
- 飲食や宿泊が楽しめる空間の創出
- 新しい働き方を推進する空間の創出
- 駐車場の整備等イベントを開催しやすい環境づくりの推進
- 快適に過ごすことができる空間の創出
- 公園内外の周遊性の向上
- イベントの誘致・開催
- 公園の魅力を伝える効果的な広報
- 地域、学校、県民等の多様な主体の協働
- 継続的な新たな公園の魅力の創出

※イメージ



アーバンスポーツパーク



キャンプ等施設



モビリティ



大規模イベント誘致



フラワーガーデン



大規模遊具

### 今後スケジュール

区分	R6年度 (2024年度)	R7年度 (2025年度)	R8年度 (2026年度)
基盤施設の整備 (行政)	設計・整備		
	・フラワーガーデン ・大規模遊具 ・通信環境等 整備	供用開始	
収益施設の整備 (民間)	民間事業者との対話	設計・整備等	運営開始

課題

- 民間活力の導入に当たってのノウハウ
- 幅広い世代が集い、交流することができる多様な施設の整備費用 等

- ① 官民連携の取組に対する知見の提供・助言
- ② 多様な施設の整備等に対する予算の確保や技術的助言

# 若者・子育て世代をターゲットにした新たな人の流れの創出・拡大について

《内閣官房／内閣府／総務省／文部科学省／厚生労働省／国土交通省》

提  
案  
・  
要  
望

## 1 大都市圏等の若者や子育て世代の地方移住（ふるさと回帰）の流れを創出する取組の創設・拡充

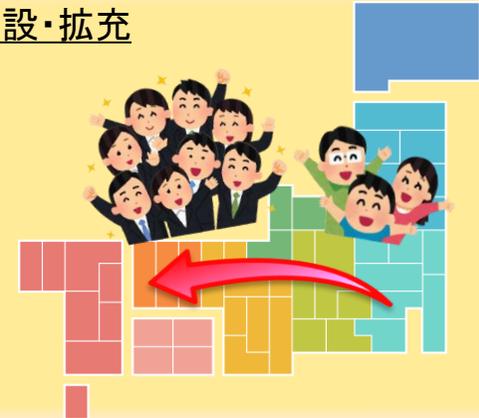
- ふるさとに回帰する若者や子育て世代への移住支援金の加算等の制度の拡充
- 若者や子育て世代の二地域居住等を促進するための支援制度の創設

## 2 大都市圏等の企業の地方分散と若者の県内就業を促進する取組の創設・拡充

- 東京圏に集中する企業の地方分散を強力に促す仕組みの創設
- 若者や子育て世代の雇用創出・拡大を図る企業に対する支援強化
- テレワークを活用した地方移住の実績に応じた企業への補助等

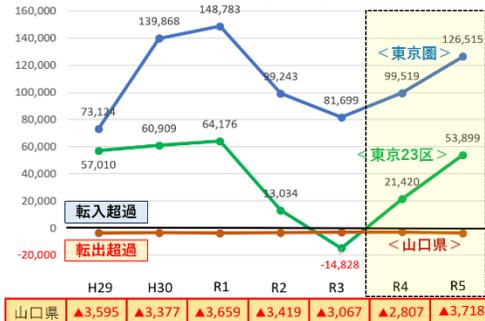
## 3 大都市圏等の学生等の地方移住を促進する取組の創設・拡充

- 地方の大学における授業料等引き下げ
- 地方での就職を促進する大学への運営費交付金や私学助成金を手厚く配分する制度の拡充



### 現 状

#### ① 人口移動報告の推移【総務省】



▶ 山口県の若者の県外流出が多い **うち 20～29歳の男・女人口 ▲3,115**

▶ 東京へ人が戻り、東京圏の転入超過がさらに拡大 ※ ②～⑤：新型コロナの影響下における生活意識・行動の変化に関する調査(内閣府) ⑥：中小企業・小規模事業者の数(中小企業庁) ⑦：全国大学一覧(文部科学省)

#### ② 地方移住への関心度

＜東京圏在住者＞

調査時期	R1.12月	R5.3月
20歳代	32.1%	<b>44.8%</b>
全年齢	25.1%	35.1%

#### ③ 地方移住の関心理由

1位	自然豊かな環境に魅力を感じる	33.1%
2位	地方でもテレワークで同様に働ける	22.6%

▶ 若者の地方移住への関心は高い

#### ④ 地方移住への懸念

1位	<b>仕事や収入</b>	<b>51.1%</b>
----	--------------	--------------

#### ④ テレワークの実施率

調査時期	R1.12月	R5.3月
東京23区	17.8%	<b>51.6%</b>
地方圏	8.1%	23.1%

#### ⑤ ワークライフバランスの重視度

全体	20代	30代	40代	50代	60代以上
30.1%	<b>34.2%</b>	<b>35.1%</b>	29.4%	24.6%	25.5%

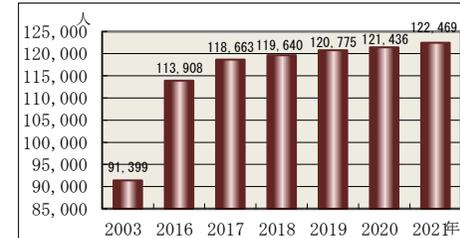
▶ 場所・時間に捉われない働き方が重要

#### ⑥ 東京圏における企業数・従業員数のシェア

区分	2016年	2021年
企業数	24.8%	25.8%
うち大企業	50.8%	53.5%
従業員数	30.2%	30.8%

#### ⑦ 大都市圏の学生数

##### ○ 東京23区内の大学の学部入学定員数



##### ○ 東京圏(1都3県)の大学入学定員の割合

区分	2021年
全国	623,275
東京圏	251,365
シェア	<b>40.3%</b>

### 課題・問題点

- 東京一極集中の傾向が再び強まり、また、東京圏内に人の流れが滞留している現状を踏まえた早急な対策の強化が必要
- 地方における社会減を断ち切るために、特に、若者や子育て世代の大都市圏等からの地方移住・還流を促進する新たな対策が必要
- 企業の地方分散を強力に推進するとともに、地方での受け皿として若者や子育て世帯のニーズを踏まえ、雇用を創出・拡大する企業の支援等が必要

## 若者や子育て世代の移住・定住を支援する取組

### ■ 本県の魅力を前面に押し出した専用サイトでの情報発信

山口は  
幸せの  
入口。

DOOR TO NEW HAPPINESS

・SNS等を活用した暮らしや子育てのしやすさをPR

### ■ 「住まい」に関する相談窓口の設置

### ■ やまぐち暮らし支援センター



(移住相談窓口：東京・大阪等)

### ■ 移住に係る県独自の支援金

- 移住就業支援金 ○移住創業支援金
  - 専門人材に係る移住支援金 ○テレワーク移住補助金
- [対象地域] 東京圏(23区以外)・近畿圏・中京圏の一部  
広島県・福岡県を新たに追加
- [補助金額] 単身30万円、世帯50万円  
18歳未満の子+50万円/人

### ■ 若者・子育て世帯向けお試し暮らし住宅



- ・県営住宅を活用し、やまぐち暮らしを体験できる住宅(家具・家電付)を整備
- ・低廉な利用料で提供

### ■ やまぐち創生テレワークオフィス



- ・「都市部」と「山口県」をつなぐモデルオフィス
- ・利用料・駐車料金無料

## 若者の県内就業の促進

### ■ 県内企業の魅力向上に向けた取組

- 若者主体の企画による企業紹介イベント
- ### ■ 若者の希望に合う就業環境の整備
- キャリアアップを支援する取組の強化
  - ワーク・ライフ・バランスの充実や子育てしやすい職場づくりに取り組む企業等を支援
  - 初任給の引上げ等を実施する企業へ奨励金
  - 奨学金返還支援制度を創設する企業へ奨励金

### ■ 若者に魅力ある雇用の場の創出

- 成長産業である半導体や蓄電池、デジタル関連企業等の誘致

### ○本県への移住者数



移住の働きかけ

移住に向けた支援

受入・定着

## 要望項目

## 若者や子育て世代の移住に向けた流れを加速

### ①大都市圏等の若者や子育て世代の地方移住の流れを創出する取組の創設・拡充

- ・ふるさとに回帰する若者や子育て世代への移住支援金の加算等の制度の拡充
- ・若者や子育て世代の二地域居住等を促進するための支援制度の創設

### ②大都市圏等の企業の地方分散と若者の県内就業を促進する取組の創設・拡充

- ・東京圏に集中する企業の地方分散を強力に促す仕組みの創設
- ・若者や子育て世代の雇用創出・拡大を図る企業に対する支援強化
- ・テレワークを活用した地方移住の実績に応じた企業への補助等

### ③大都市圏等の学生等の地方移住を促進する取組の創設・拡充

- ・地方の大学における授業料等引き下げ
- ・地方での就職を促進する大学への運営費交付金や私学助成金を手厚く配分する制度の拡充

# 新たな需要を地方誘客につなぐ戦略的なインバウンドの推進について

《国土交通省／観光庁》

提案・要望

## 1 地方への周遊促進を図るインバウンドの推進

- 万博開催等を契機として、外国人観光客を地方へ誘客するための取組に対する支援の充実
- 地方における観光二次交通の定着や高度化に対する支援
- 外国人観光客に訴求する観光地域づくりや受入環境整備に向けた支援の充実

## 2 地方へ外国人観光客を直接呼び込むための国際線・クルーズ船誘致の推進

- 国際チャーター便や定期便の円滑な誘致に向けた航空関連事業者への経済的支援の充実
- 国際便の受入に向けた航空・空港人材確保対策の充実
- クルーズ船の誘致に係る船舶関連事業者への支援制度の充実、クルーズ船旅行者の県内周遊促進に係る支援



### 現 状

#### インバウンドの急速な回復

◆外国人延べ宿泊者数(上半期比較)

※地域割合

区 分	令和元年	令和6年	伸び率	区分	三大都市圏	その他
全 体	5,147万人	6,473万人	125.8%	全体	70.6%	29.4%
アジア重点5市場	3,669万人	3,962万人	108.0%	欧米豪	82.0%	18.0%
欧米豪	875万人	1,534万人	175.3%			

●コロナ禍の収束や円安等により、訪日外国人延べ宿泊者数はコロナ禍前の水準を超え、過去最高の勢いで成長

●訪日外国人旅行者(特に欧米豪)は三大都市圏に集中

#### 地方への注目の高まり

●大阪・関西万博を契機とする地方周遊への機運・関心の高まり

…期間中の訪日外国人:350万人(想定)

●オーバーツーリズム対策としての地方誘客促進の重要性の高まり

### 課 題

●欧米豪等の旺盛なインバウンド需要を地方へ波及させるための戦略的プロモーションの展開や広域周遊促進に向けた取組強化が必要

●空港・駅から、観光地までの交通手段を整備し定着化を図るとともに、MaaSの取組等により利便性を高める必要

●高機能トイレ、フリーWi-Fi、キャッシュレス決済等ストレスフリーな受入環境整備に継続して取り組む必要

●豊かな自然や歴史、文化などの地域の強みを活かしたコンテンツの開発等による魅力的な観光地域づくり

●国際チャーター便や定期便、クルーズ船の誘致促進に向けた受入体制強化や支援制度の充実が必要

# 新たな需要を地方誘客につなぐ戦略的なインバウンドの推進について

## 国際線・クルーズ船等の誘致の推進

- ・韓国や台湾等との定期便、チャーター便の誘致推進
- ・クルーズやまぐち協議会運営、セールス活動の実施等



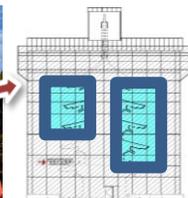
## 地方への周遊促進

- ・海外メディア等を活用したプロモーションの展開
- ・万博等を契機とした広域周遊の促進等



## 受入環境の整備

- ・瑠璃光寺五重塔の改修現場への対応
- ・広域観光周遊バスの実証運行
- ・海外OTA戦略アドバイザー配置、多言語コールセンター運用等



外国人観光客の誘客による  
新たな人の流れを創出



# 「錦帯橋」の世界文化遺産登録について

《文部科学省／文化庁》

提案・要望

## 1 「錦帯橋」の世界遺産(文化遺産)暫定一覧表への追加記載

- 独特の構造と構造美を持つ木造橋「錦帯橋」を、人類共通の遺産として将来にわたり保存・継承するため、世界文化遺産候補として暫定一覧表への追加記載

## 2 「錦帯橋」の世界文化遺産登録に向けた取組の推進

- 「錦帯橋」の世界文化遺産登録に向けた取組に対する指導・助言等の支援



### 現状

#### 【国の動向】

- 世界遺産登録決定により、暫定一覧表の記載資産は減少
- 文化審議会世界文化遺産部会の下にワーキンググループが設置(R6.4)され、暫定一覧表への追加記載に向けた具体的な検討が行われている状況（平成25年度以降の追加記載なし）

#### 【我が国の世界遺産(文化遺産)暫定一覧表】 (令和6年9月現在)

名称	記載年
古都鎌倉の寺院・神社	平成4年
彦根城	平成4年
飛鳥・藤原の宮都【令和6年度推薦候補に選定】	平成19年
平泉-仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群	平成24年
佐渡島の金山 ⇒ 令和6年7月世界文化遺産登録	平成22年

#### 【山口県・岩国市の主な取組】

- 官民一体となった推進体制の構築
  - ・ 錦帯橋世界文化遺産登録推進協議会(県・市・関係団体で構成)設立 (H28.11)
- 提案書を文部科学大臣へ提出(H30.12)
- 錦帯橋の価値についての理解増進
  - ・ 国内シンポジウムや国際意見交換会等の開催(H29、H30、R1、R3等)
  - ・ オーストラリアで開催されたイコモス総会シンポジウム等での発表(R5)
  - ・ 海外専門家を招聘し、国際シンポジウム、意見交換会を開催(R5)

錦帯橋の顕著な普遍的価値や真実性についての世界的な合意形成に向け進展



- 地元における機運の高まり
  - ・ 「錦帯橋」創建350年(R5)の節目を迎えて一層の機運の高まり
  - ・ 岩国市議会において10月1日を「錦帯橋の日」に制定

### 課題

- 暫定一覧表の記載資産が減少
- ⇒ 錦帯橋の調査・研究が進展し、地元の機運が高まる中、**暫定一覧表追加記載の早期実現に向けた絶好の機会**

- 近年、世界文化遺産の新規推薦案件に係るユネスコ世界遺産委員会の審査が厳格化
- ⇒ 豊富な知識を有する文化庁の指導・助言等を受けながら推薦書の作成や保存管理、理解増進・情報発信等に取り組むことが重要



## 錦帯橋の概要

〔名称〕 錦帯橋（きんたいきょう）

〔所有者〕 岩国市

〔創建年〕 1673年（延宝元年）

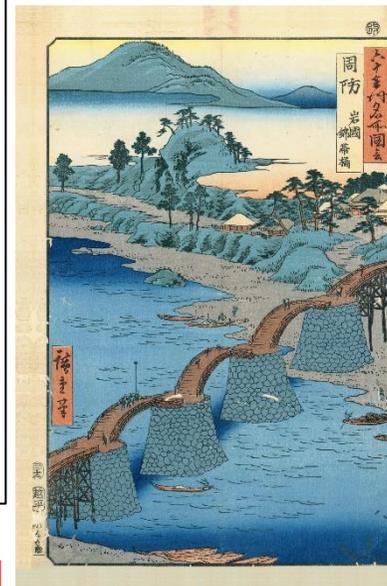
〔創建者〕 岩国領主 吉川 広嘉（きっかわひろよし）

〔長さ等〕 全長193.3m、幅5m

〔指定等〕 ○名勝（大正11年3月8日指定、昭和18年8月24日追加指定）  
○重要文化的景観（令和3年10月11日選定）の重要な構成要素

## 錦帯橋の魅力

- 錦帯橋は世界唯一
  - ・ 幅約200mの川を、独特な木造アーチ構造と橋脚で渡す木橋は錦帯橋が世界唯一。
- 時代を渡る橋
  - ・ 江戸時代の創建時より、同じ場所、同じ姿で今に伝わる。
  - ・ 江戸時代の図面や実物大の型板により、錦帯橋のデザインは350年以上の時を超えて継承。
  - ・ 架け替えを契機とした作図等による架橋技術の伝承。
- 無限の美しさ
  - ・ 江戸時代からの名勝地で、浮世絵にも取り上げられる美しさ。
  - ・ 橋板のシンプルさと橋桁の複雑さを有する「錦帯橋式アーチ構造」を下から見上げた時の美しさ。



歌川広重（岩国徴古館所蔵）



錦帯橋式アーチ構造

〔参考：世界遺産までの流れ〕

暫定一覧表  
記載  
(文化庁)

推薦決定  
(政府)

イコモス  
での審査

世界遺産委員会  
による審議・決議

世界遺産  
登録

# Mine秋吉台ジオパークのユネスコ世界ジオパーク認定に向けた支援について

《文部科学省／内閣官房／内閣府》

提  
案  
・  
要  
望

- ## 1 国内推薦決定を受けたMine秋吉台ジオパークのユネスコ世界ジオパーク認定に向けた支援
- ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた専門的・技術的助言
  - ジオパーク認定に向けた地元の取組への財政的支援の強化
    - ・ 認定審査に係る地元負担への支援
    - ・ ジオパーク拠点施設の機能強化等への支援
    - ・ ジオパーク認定地域を対象とした財政支援制度の創設

- ## 2 ジオパークの持続的な発展につながる取組への支援
- ジオパークの価値を広く国内外に伝え、インバウンドを含めた誘客拡大にもつなげる情報発信の強化
  - ジオパークの活動を支える地域の人材育成や理解促進に向けた教育プログラムの実施等の取組への支援
  - ジオパーク活動と調和・融合した持続的で魅力ある地域づくりへの支援
  - 認定後の継続的な財政的支援

### 現状

- 日本及びユネスコ世界ジオパーク認定は、貴重な自然や文化、歴史的資源の保全、継承のみならず、教育・研究や観光などを通じて地域活性化に大きく寄与
 

日本ジオパーク: 47地域、国内のユネスコ世界ジオパーク: 10地域、構成市町村数: 151
- **Mine秋吉台ジオパークは、10月9日にユネスコ世界ジオパークの国内推薦が決定し**、現在、認定申請に向けた作業が進行中

#### 《Mine秋吉台ジオパーク》

～「地球に寄り添い、人とつながり、未来のあり方を考え行動する社会」を目指して～

- ・平成27年9月 日本ジオパーク認定(令和元年10月再認定)
- ・令和6年 4月 ユネスコ世界ジオパーク認定に向け国内推薦申請
- ・令和6年10月 国内推薦決定
- ・令和6年11月 ユネスコ世界ジオパーク認定に係る申請書提出(予定)
- ・令和8年度内 ユネスコ世界ジオパーク認定 を目指す



- 本年1月、NYタイムズ紙が発表した「2024年に行くべき52カ所」に山口市が選出されたことに加え、令和8年度には県の観光デスティネーションキャンペーンの開催が決定しており、国内外の注目が大きく集まっている今が山口県の魅力を世界に発信する絶好の契機

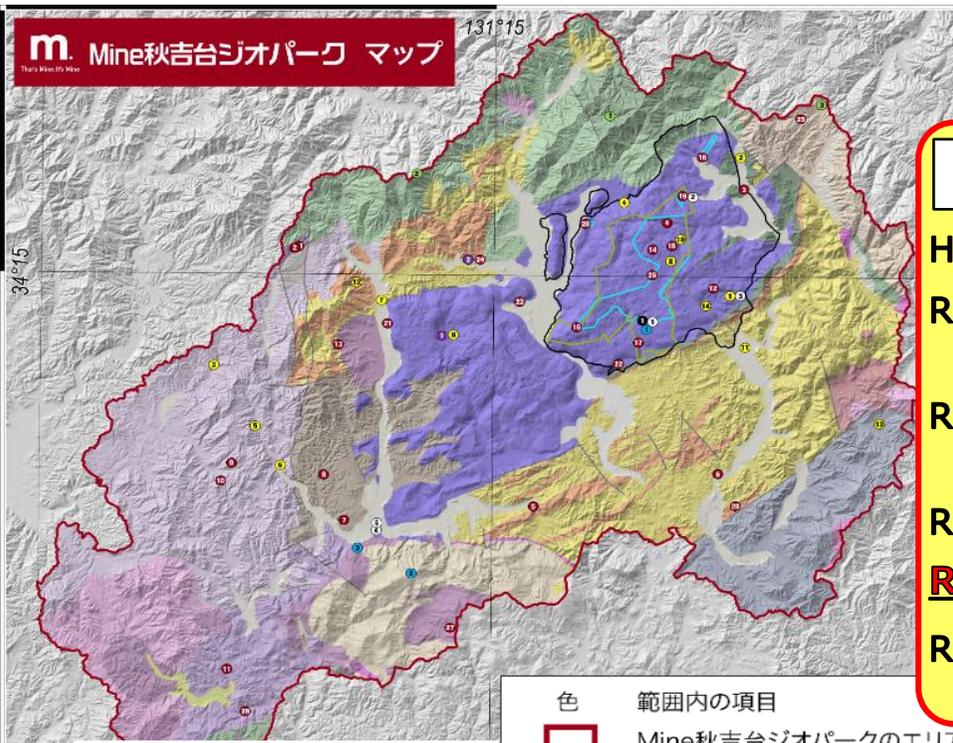
### 課題・問題点

#### 【認定に向けて】

- 世界ジオパーク認定に向け、**国等の専門的・技術的助言**が必要
- ジオパークを対象とする財政支援措置がなく、**認定審査への対応や拠点施設の機能強化や改修等、地元の取組への支援**が必要

#### 【ジオパークの持続的な発展に向けて】

- ジオパークの理解促進と、国内外からの誘客拡大に向け、**国による強力なPR**が必要
- 世界ジオパークの認定には地域資源の持続的な保全・活用が重要であり、**地域の活動を支える人材の育成や、ジオパーク活動と調和・融合した地域づくり等の取組の強化**が必要
- **認定された後も**、4年毎に、自然・文化遺産の保全状態や利活用状況、地域活性化への貢献等の審査があり、**継続的な支援**が必要



- 色 範囲内の項目
- Mine秋吉台ジオパークのエリア
  - 秋吉台国定公園
  - 特別天然記念物秋吉台
  - ラムサール条約登録エリア



ジオツアー



秋吉台の保全活動



ベトナムのジオパークとの交流

【ユネスコ世界ジオパーク認定までの行程】

**Mine秋吉台ジオパーク**

H27.9 JGN正会員認定

R6.4.25 国内推薦  
申請書提出

R6.5.25 国内推薦に向けた  
プレゼンテーション

R6.7.26~29 現地調査

**R6.10.9 国内推薦決定**

R6.11末 世界ジオパーク認定  
申請書提出(予定)

**世界ジオパークネットワーク加盟**

join the GGN

**世界ジオパークネットワーク**

(書類審査・現地審査)

**日本ジオパーク委員会**

(書類審査・現地調査)

**日本ジオパークネットワーク加盟**

join the JGN

【県との連携】

Mine秋吉台  
ジオパーク  
推進協議会

会長: 美祢市長  
委員: 地元の観光・  
商工・交通等  
関係団体  
行政、教育等

山口県  
ジオパーク支援会議

Mine秋吉台  
世界ジオパーク  
認定等支援部会



# 自然公園の保護と利用の好循環の実現に向けた支援について

《環境省》

提案・要望

## 1 国立公園における保護と利用の推進に向けた支援の充実

- 国立公園に限定されている上質な自然景観を確保する整備メニューの国立公園への拡充

## 2 国立公園内ビジターセンターの利用促進に向けた取組に対する支援の充実

- 国立公園利用促進事業の国立公園への拡充
- 国立公園核心地利用施設上質化事業の国立公園への拡充

## 3 県立自然公園内ビジターセンターの利用促進に向けた取組に対する支援の充実

- 国庫補助事業を活用して整備した県立自然公園施設の長寿命化に対する支援の創設

### 現状

#### 【国の取組】

- ・ 国では自然公園における「保護と利用の好循環」を推進する施策を強化
- ・ 国立公園のインバウンドに向けた環境整備を推進

#### 【山口県の現状】

- ・ Mine秋吉台ジオパークの世界ジオパーク認定に向けた国内推薦決定
- ・ 自然公園をはじめとする豊かな自然環境を活かした「山口ならではのアウトドアツーリズム」を推進
- ・ 令和8年度には県のDESTINATIONキャンペーンの開催が決定しており、自然公園来訪者の増加を図る絶好の契機
- ・ 自然公園内に4つのビジターセンターを設置

国立公園（秋吉台、角島、須佐湾）、県立自然公園（豊田湖）

- ・ ビジターセンターの有効活用に向けて、キャンプ施設や自然環境学習施設等の特徴を踏まえ、市への施設の移管を含めた見直しも検討
- ・ 秋吉台や角島など、県内有数の観光地のインバウンド対応等に向け、老朽展示物の更新や設備修繕に関する地元市からの要望が増加



カルスト台地  
(秋吉台国立公園)



秋吉台ビジターセンター  
(Mine秋吉台ジオパーク拠点施設)



角島大橋  
(北長門海岸国立公園)

### 課題・問題点

- 集客力の高い国立公園内に廃屋となった宿泊施設が残存するが、景観改善等の支援制度なし

- 国立公園満喫プロジェクト等推進事業の整備メニューを国立公園に拡充（廃屋撤去、無電柱化、修景伐採等）

- 国立公園内に県内有数の観光地が位置しており、外国人を含む来訪者増加に向けたビジターセンターの展示機能の強化が必要
- 老朽化した建物設備の改修に加え、利用者が施設内で休憩可能なスペースの確保等、利用施設の上質化に向けた再整備が必要

- 国立公園利用促進事業及び国立公園核心利用施設上質化事業を国立公園に拡充

- 国補助事業を活用して整備した県立自然公園施設が設置から30年近くを迎え老朽化しており、施設の改修整備が必要
- 自然公園の拠点施設として、今後もビジターセンターの活用を進めていく上で必要となる施設の長寿命化に関する国の支援策なし

- 国庫補助事業を活用して整備した県立自然公園施設の長寿命化に対する支援の創設

## 要望の背景

### <県の取組>

- ・ビジターセンターの特徴に応じた機能強化を強力に推進

### <自然公園来訪者増加のチャンス>

- ・ Mine秋吉台ジオパークの世界ジオパーク認定に向けた国内推薦決定
- ・ 「山口ならではのアウトドアツーリズム」の推進 等

(要望) 国立公園に限定された景観改善メニューを国定公園に拡充

(要望) 国立公園利用促進事業及び国立公園核心地利用施設上質化事業の対象を国定公園にも拡充

・廃屋の撤去等による自然景観の改善を実施



秋吉台ビジターセンター  
(秋吉台国定公園)



雄大なカルスト台地  
(秋吉台国定公園)

・老朽化した展示をデジタル展示に更新

・ビジターセンターの上質化を図るため施設整備を実施



角島ビジターセンター  
(北長門海岸国定公園)

(要望) 国庫補助事業を活用して整備した県立自然公園施設の長寿命化に対する支援の創設

・県立自然公園ビジターセンターの改修による施設の長寿命化



豊田湖ビジターセンター  
(豊田県立自然公園)

## 自然公園の来訪者増加

- 自然公園の自然景観の改善を図り来訪者の滞在環境を向上
- 自然環境学習施設の機能強化を図り、インバウンド等の利用を促進
- ビジターセンターの長寿命化による快適な利用空間の維持



## 自然公園の保護と利用の好循環を実現



# 山陰道の建設促進について

《国土交通省》

提案・要望

## 1 事業中区間の事業促進

- 益田・田万川道路
- 木与防災
- 大井・萩道路
- 三隅・長門道路
- 俵山・豊田道路

## 2 未着手区間の早期事業化(計画段階評価への早期着手)

- 「豊田～下関」間
- 「益田～萩」間のうち残る区間

### 現状と課題

#### ◇交流基盤の充実・強化

【地方創生】

- ・山陰地域の骨格をなす山陰道には未だ多くのミッシングリンクが存在
- ・企業誘致や市場の拡大、観光の振興など、九州圏をはじめとした広域的な経済交流や連携を図る上で、早期のネットワークの構築が必要

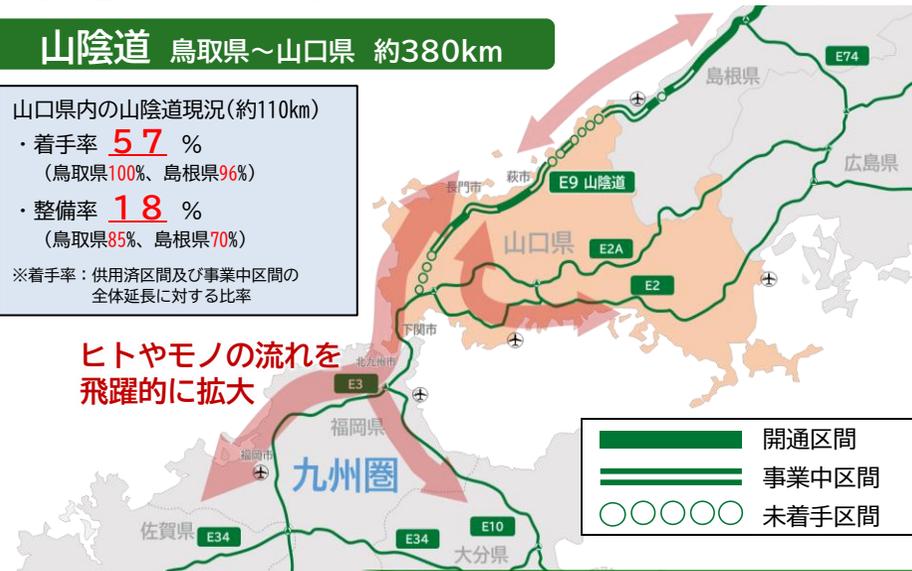
#### 山陰道 鳥取県～山口県 約380km

山口県内の山陰道現況(約110km)

- ・着手率 **5.7** %  
(鳥取県100%、島根県96%)
- ・整備率 **1.8** %  
(鳥取県85%、島根県70%)

※着手率：供用済区間及び事業中区間の全体延長に対する比率

ヒトやモノの流れを  
飛躍的に拡大

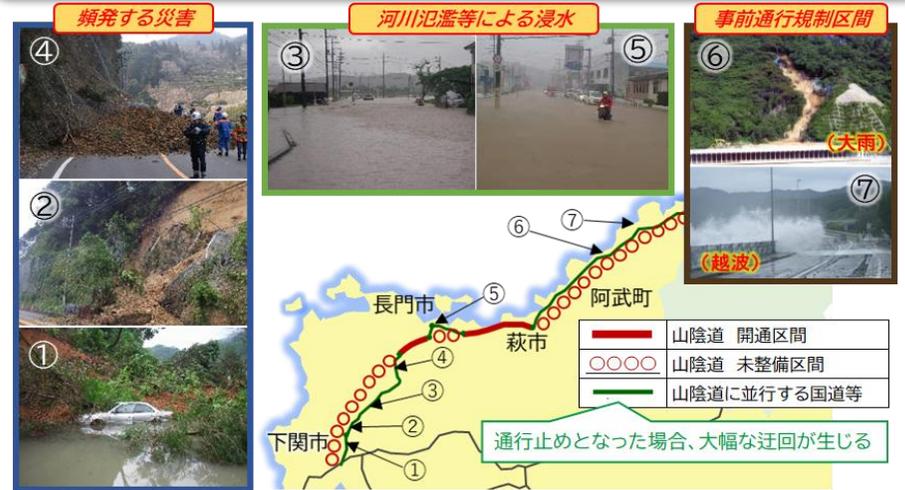


#### ◇強靱で信頼性の高い道路ネットワークの構築

【国土強靱化】

- ・近年激甚化、頻発化する災害により、各地で幹線道路が寸断
- ・国土強靱化に向けて、災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの構築が急務

### 現道の課題



地方創生や国土強靱化を力強く進めるためには、その基盤となる山陰道の早期整備が不可欠

# 高速交通体系の構築に向けた山陰道の整備により期待される様々な効果

## 観光の振興(観光客の増加)



## 産業の活性化



## 救急活動の迅速化



凡 例(山陰道)		
○ ○ ○ ○	未 着 手	
■ ■ ■ ■	事 業 中	
— — — —	供 用 済	



# 下関北九州道路の早期実現について

《国土交通省》

提案・要望

- 1 国と2県2市が緊密に連携・協力し、環境影響評価や都市計画の手続きを着実に推進
- 2 早期事業化に向けて、有料道路事業の導入や民間資金を活用したPFIなど、効果的な整備手法の検討促進
- 3 地域の観光資源としてのポテンシャルを高め、地域活性化に繋がる道路となるような検討の促進

## 現状と課題

### ◇循環型ネットワークの形成・信頼性の高い道路網の構築

両市街地間を結ぶルートは、老朽化が進む関門トンネル、関門橋のみであり、「迂回」、「渋滞」、「通行止め」などが課題

#### 課題

両市間移動時の **大きな迂回**

中心市街地間の移動距離は、**直線距離の約2倍！**

#### 課題

両市を結ぶ道路の **慢性的な渋滞**

両市を結ぶ経路上で、**交通が集中！**

#### 課題

関門トンネルや関門橋で **頻発する通行止め**

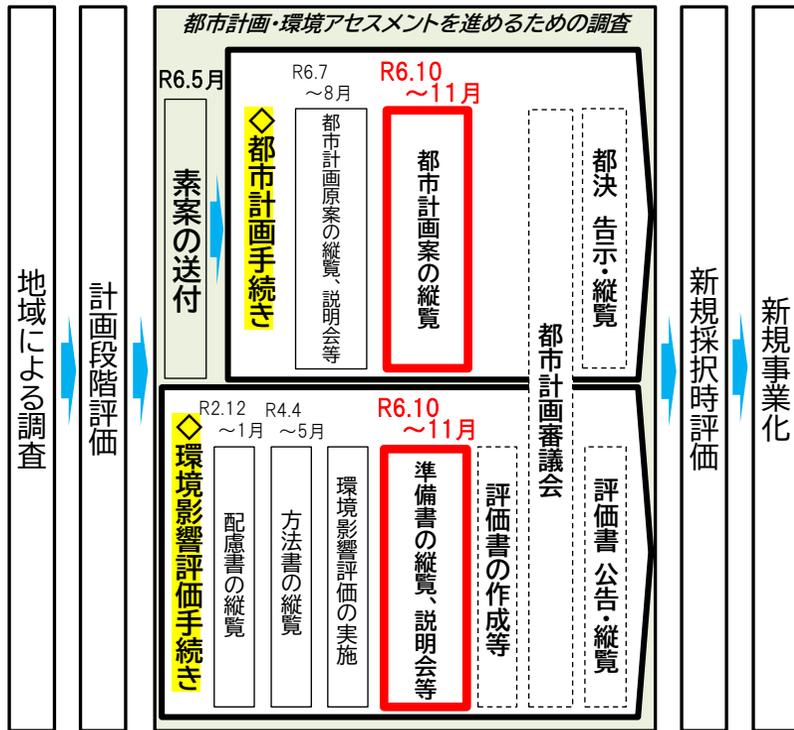
関門トンネルでは、事故等による通行止めが、**約2日に1回発生！**

【凡例】

- ↓ : クルーズ船の着岸場所
- : 主要観光地
- ▲ : 主要渋滞箇所



### ◇事業化に向けた流れ



- 関門地域のさらなる発展のためには、循環型ネットワークを形成する下関北九州道路の整備が不可欠
- 近年頻発する大規模災害時にも機能する信頼性の高い道路網を構築する観点からも、当該道路の早期整備が必要

# 循環型ネットワーク

(くらし、産業・物流、観光、渋滞緩和など関門地域の一体的発展に寄与)



## 地域の声

下関北九州道路整備促進大会 R6.7開催！  
※約400名参加

大会では、**地元の中학생が、「『海の家がある道の駅』をつくり、下関北九州道路で多くの人々が彦島に来て、若者が集まる元気な街にしたい！」**との意見を発表！

下関市在住の大学生は、「**下関北九州道路によりアクセス性が高まり、『新しい橋が新たな観光スポットになることを期待！』**」と発表！



整備促進大会の様子



大学生による意見提言

## 大規模災害時に機能する信頼性の高い道路網 (海峡を越えた災害への対応)

大規模災害時には、多くの支援車両が関門橋を通行して救援活動を実施

H28.4熊本地震の際は、自衛隊車両が約7000台通行(※山口県調べ)

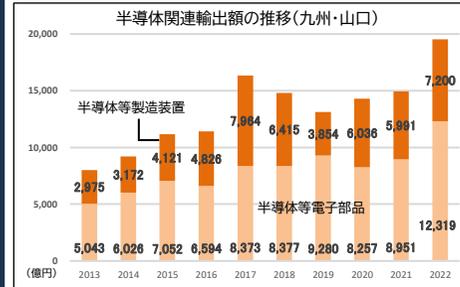


H28.4熊本地震被災地

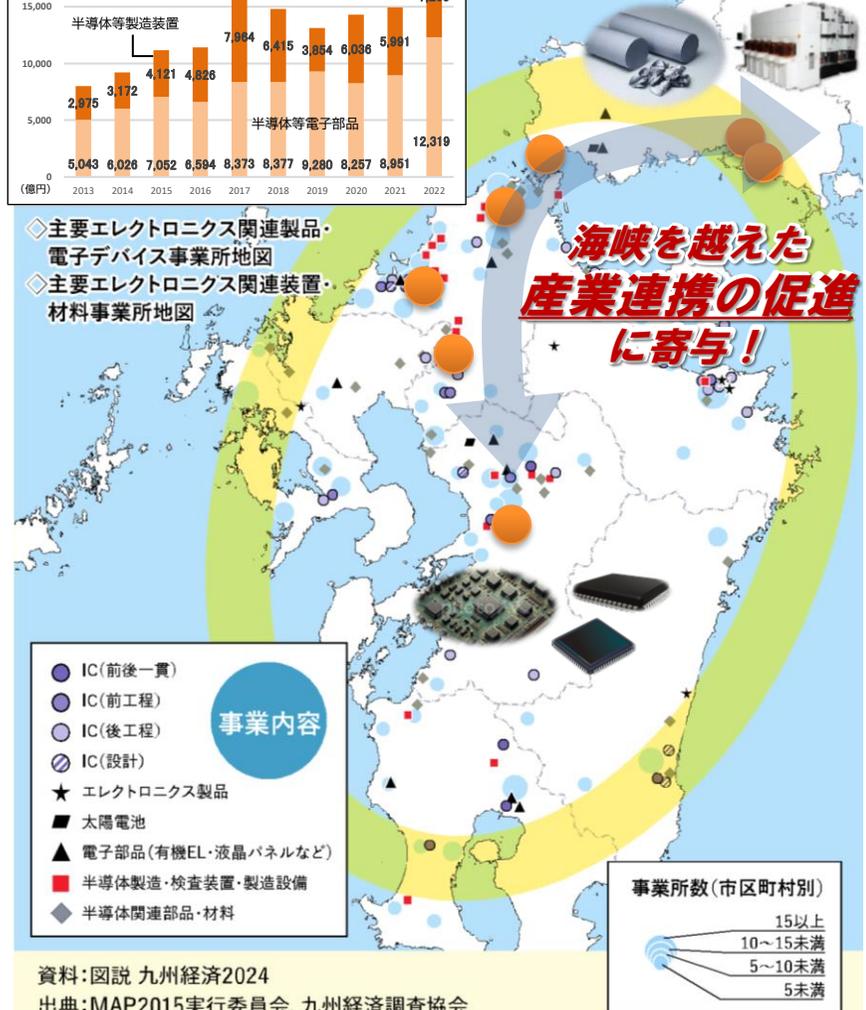
H30.7豪雨の際は、九州から広島・岡山の被災地へ向けて多くの支援車両が通行

# 半導体関連産業の集積

「新生シリコンアイランド九州」生産・輸出は再び拡大傾向！



【近年(R4~)】  
主な半導体関連施設の建設箇所



海峡を越えた産業連携の促進に寄与！

資料: 図説九州経済2024

出典: MAP2015実行委員会、九州経済調査協会

「九州とアジアの半導体実装関連企業データベース」各社ウェブサイト  
2022年7月時点での情報を掲載